

イルミナティ理解のために

【訳者注】イルミナティとは何かの、要領よく、わかりやすい、しかも深い洞察による解説を我々は得た。隠れた著者に感謝するとともに、**必読**としてお勧めしたい。

イルミナティという言葉自体がタブーとなっているから、その存在を知らない人もあるだろう。実は近代史は、この邪悪な秘密の団体によってつくられ、現在、彼らはその長年の計画を、完成させようとしている。我々は彼らと対決すべき時にきている。そのためには彼らをよく知らなければならない、というのがこの論者の趣旨である。残念ながらメディアは本当のことを言わない。メディア自体が彼らの道具だからである。例えば、7ページの3段目に書いてあるようなことは、彼らの習性を知っていれば、かなりの確度で予測できるが、新聞とテレビしか見ない人は、予測どころか、起こっても何が起きているのか見当もつかないだろう（false flag「ニセ旗」というキーワードさえタブーになっている）。

ここに、イルミナティ離脱者 Svali などによる、内部証言をつけ加えるならば、この団体の外側と内側のほぼすべてが、開示されたことになるだろう。

Newsheadlines: Understanding the Illuminati

幸いなことに、イルミナティは極端に傲慢で、自分たちの知的優秀さを見せびらかすことが好きである。なぜ、幸いなことか？

それは、もし彼らが自分たちのことを完全に秘密にするならば、我々には、彼らの心の動きがわからず、彼らをどう打ち負かしたらよいかわからないからである。

我々はイルミナティの信念を調べることによって、彼らの精神構造と、打ち負かす方法を知ることができる。まず、彼らは無神論者ではない。彼らの神はルシファーだが、彼らはルシファーを悪とは見ていない。彼らにとってルシファーは、「光」をもたらす者、すべての知識と知恵と力の真の根源である。

彼らの哲学の目標は、ルシファーの「光」を完全に取り込むことである。誰でもこの光を得た状態（illumination）に達した者は、illuminatus（illuminatiの単数形）と呼ばれる。

イルミナティの精神構造

「どうして同じ普通の人間なのに、彼らのように考えることができるのだろうか？」と問う人々がいる。しかし彼らは普通の人間ではない。そもそも彼らは人間なのかと問う人さえいる。彼らの世界観全体が、我々のものとは完全に異なっている。彼らは狂人でも、常軌を逸しているのでもない。実は彼らは、平均的な人間よりはるかに合理性を重んじている。

彼らの多くは、次のような根拠に基づいて、彼らの過激な **New World Order** (新世界秩序) 計画を正当化しているように見える——

世界の人口は、維持できないほどに増大しつつある。もしこれを厳しくコントロールしないと、この惑星は混乱状態に陥るだろう。民主主義は、絶えず増大する政府負債と、絶えず増大する人口という危険な状況を、ますます作り出すだろう。答えは、権力を、統治の方法を本当に知っている者たちの手に完全にゆだね、人口を維持可能なレベルにまで減らし、安定した政府をつくり、国家や民族、宗教的な争いから起こる、すべての戦争を終わらせることである。

イルミナティは、惑星の安定維持を可能にするためには、極端な手法が必要になると信じている。もしこの惑星を救うために、何百万の人々が、短期の大災害で死なねばならないとしたら、それは必要なことだ。彼らの目から見れば、彼らは残酷な野獣でなく、宇宙の道徳法に従って行動する最高の現実主義者である。彼らの精神構造は、彼らが“高貴”と考える、次のような原理によって形成されている——

- * 目的は手段を正当化する
- * 強者が、道徳的見地から、支配する権利をもつ
- * 弱者とは、精神的な欠陥者で、したがって使い捨て可能 (expendable) である
- * 強者は、世界乗っ取りの準備ができるまで、自分の正体を隠すだろう
- * イルミナティの価値以外のすべての価値は、にせものである
- * 生き残りと繁栄は、全面的支配いかんにかかっている
- * 人間の意志の外に、絶対的な善悪はない

イルミナティの道徳基準

奇妙に聞こえるかもしれないが、イルミナティは道徳基準をもっている。このリストは不完全だが、彼らの考え方を例証し、我々が近未来に何が起こるかを予想させるものである——

- * 敵を殺す前に、あなたは彼に何をしようとしているかを、告げなければならない。
- * 復讐は、ただ気持ちがいだけだけでなく、必要なことである。

*すべては、バランスが保たれていなければならない。すべてのネガティブな行為は、ポジティブな行為と釣り合っていないなければならない。

*強い者は、弱い者をより大きな目的のために利用することを、道徳的に義務付けられている。

*権力は現実である。愛と同情は弱者を慰めるための幻想である。

*すべての行為には、宇宙の秩序における、正しい時と所がある。

*犠牲は、より大きな善のために必要である。

*目的のためには、手段は正当化される。

彼らの道徳基準の一部として、イルミナティは、自分たちが何を計画しているかを、世間に告げねばならない（訳者：9・11のときの“イルミナティ・カード”は一例だろう）。彼らの計画のいろんな面が、映画、本、連続テレビ番組、また商品の広告によってさえ明らかにされる。彼らの壁画もまた、計画された事件を明らかにしている（訳者：デンバー国際空港の壁画だけでなく、彫像にも注目）。

http://www.helpfreetheearth.com/news198_UN.html

http://www.helpfreetheearth.com/news200_mural.html

http://www.helpfreetheearth.com/news205_bank.html

超金持ちたちは、博愛主義運動に多額のカネを寄付することを重んじている。そのような“ポジティブな”カルマは、彼らの“ネガティブな”カルマを帳消しにするか、バランスを取ると考えられている。

イルミナティの占星術や宇宙力学への信仰は、彼らの意志決定に影響を与えている。正しい行動も、もしそれが間違った日に実行されると、無効になることがある。これが、彼らが重大な行動に取りかかるのに、オカルト的に意味のある日を選ぶ理由である。

イルミナティのスポーツとユーモア

イルミナティの高度な知性は、無知な大衆が夢中になるつまらない、スポーツ、ポップ音楽、メロドラマ、ゲーム、ハリウッド・ゴシップなどによって、動かされたり楽しまされたりすることはない。彼らのスポーツや娯楽は、“本物の戦争ゲーム”であって、ビデオの戦争ゲームではない。彼らは本物の軍隊を使い、本物の人間をふっ飛ばして楽しむ。世界は彼らの“チェス・ボード”で、彼らは軍隊をおもちゃの兵隊のように動かし、兵器をテストする。次の手を計算し、信じやすい大衆を騙したり、もてあそんだりするのが彼らの大好きな“スポーツ”である。（訳者：“愚弄”ということが彼らの特徴である。Cf. 2013/5/8「不気味なシンボルの横行」）

ユーモアについて言うならば、日本の“FUK U” Shima (Fuck you, Shima) や、地震兵器 HAARP で“Bam, Iran” (Bomb Iran) などは、彼らには、おかしくてしょうがないのだ。

http://www.helpfreetheearth.com/news287_free.html

それよりもっと彼らがおかしがるのは、人々が彼らのニセの慈善機関に送ったすべての寄付金を、後でポケットに入れることである。

http://www.helpfreetheearth.com/news181_charity.html

イルミナティは、シオニストかユダヤ人の陰謀なのか？

今日のイルミナティは、ユダヤ人のカルテルではない。しかし、彼らの最も影響力あるメンバーの多くは民族的にユダヤ人である。イルミナティの中核は、アングロ・アメリカン体制派家系の最富裕メンバー、ヨーロッパの王族、それに多くのユダヤ人銀行家王朝からなっている。

悪名高い“シオン（ユダヤ民族）の学者長老議定書”は、作りごとではなかったが、彼らが厳密にシオニストだったわけでもない。それが発表された 1905 年以來の、世界的な展開を考えてみただけで、いかにそれが、この議定書に謳われている悪魔的な戦略を忠実に反映しているかがわかる。批評家の中には、この戦略は、変わっていく世界情勢に合わせて、世代とともに少しずつ改定されたと考える人もいる。それらが“家畜”あるいは goyim（他民族への悪口）と言っているのは、非ユダヤ教徒のことではない。

http://www.helpfreetheearth.com/predictions_8.html

イルミナティのエリート主義

イルミナティは、科学や科学技術を、宇宙における人間の無際限の影響力拡大のカギと考えている。究極的に人間は、老化の問題を解決したり、宇宙を旅して遠い惑星に植民したりするであろう。時が来れば、彼らの考えでは、すぐれた人間は、電子・遺伝子的な強壯剤を自分の肉体に取り込むことによって、さらに強くなることができる。

イルミナティは宇宙を、力学的な二元論によって理解している——善と悪、ポジティブとネガティブ、男性と女性、強者と弱者、光と闇など。誰であれ人間の真の目標は、自分が宇宙的争いを超えて勝利し、神のように生きられるように、善悪の完全な知識を獲得することである。

イルミナティは、一人の“イルミナトゥス”になるだけの力をもった人間は、わずかしかないと信じている。彼らは地球の資源を大量消費し、地球を汚染し続けている。イルミナティの研究をする人々は、彼らは、この惑星が自然の状態に戻れるように、その人口の大部分を減らそうとしていると考えている（訳者：「ジョージア・ガイドストーン」の碑文参照）。これは、キリスト教の聖書の「黙示録」に書いてある「終末」のシナリオと、たまたま一致する。そこには、莫大な割合の人類が、病気、飢饉などの災害によって、数か月のうちに死滅すると書かれている。イルミナティは、その予言を実現させることで、聖書を彼らの終末アジェンダのためのマスター・プランに、利用しようとしていると思われる。

イルミナティは人間を、利用すべき愚かな動物と見ている。エリートの血筋をもつ者だけが、人間 - 動物状態から脱出し、自分自身を「光を得た状態」（Enlightenment）と霊的自由の高みに引き上げるのに成功するのだ。

支配者エリートと彼らの家族

この“エリート”の家族は、彼らの“排他主義的”哲学を、何世代も通じて子々孫々に伝えてきた。ウィンザー家、ブッシュ家、ロックフェラー家、ロスチャイルド家、等々の子孫たちは、彼らの先祖の地球支配計画を受け継いでいる。イルミナティの子孫たちは、伝統的に、銀行、法律、政治の世界の仕事に就くように教育される。最近数十年は、彼らの実践的な関わり合いの場面が大きく広がり、彼らが現在、多国籍企業や国際的諸機関を通じてふるっている権力や影響力の大きな増大に、それは現れている。彼らの子孫たちは一級の教育を受け、最も優秀な者たちは、更に高度なトレーニングを受ける。

ひとたびイルミナティのメンバーが、重要な企業や組織に高レベルの足がかりを得ると、彼らは自分たちの仲間に門戸を開く。このプロセスが何世代も続いてきたので、彼らは現在、あらゆる工業国の大きな組織を、直接、または代理を通じて、支配し影響力を及ぼしている。

イルミナティはまた、その技量や傾向が彼らの役に立つと思われる、非イルミナティのメンバーをも用いる。もしあなたがこうしたすべてを、単に荒唐無稽な陰謀と考えるなら、あなたはポイントを捉え損なっている。金持ちで影響力をもつ人々が、それぞれの利益を増進させようと協力するのは、昔から知られたことである。このような陰謀団のカルテルは、しばしば“黄金のサークル”と呼ばれる。イルミナティ・カルテルの唯一際立った特徴は、それが非常に長い間、国境を越えて活動していること、そしてその最も影響力あるメンバーが、オカルト宗教の実践者だということである。その証拠は、人間の条件の目に見える堕落性と歴史の教訓に、明瞭に書き込まれている。

イルミナティ・カルテル

中世以来存在している、すべての破壊的で自己奉仕的な組織の中で、イルミナティほど冷酷な野心と、戦略的な狡知をもった組織はない。それが、彼らがトップにいる理由である。

イルミナティの顕著な特徴の一つは、自分の目的に役立つ諸々の秘密組織をつくり出す、彼らの能力である。この方法で彼らは、社会で最も重要な機関を運営している人々に、支配力を及ぼすことができる。そして、これらの組織のメンバーは**秘密の誓い**によって縛られ、より高位のメンバーに絶対の忠誠を誓っているから、彼らは自分では理解できないやり方で、操作されることがよくある。

これらの秘密組織で最もよく知られているのは、彼らのアジェンダを推進する最も有効な道具であるフリーメイソン団である。それは、向上心と野心をもつ実業家や専門職業家にとって、密の罫である。フリーメイソン団は、中東のカルト教団から、ほとんどはカバラを中心として、エジプトの魔術や古代ギリシャの秘教から起こった。

アルバート・パイク、ジュゼッペ・マッチーニ、それにパーマーズタウン卿が、フリーメイソン団のいろんな支部を寄せ集め、それらを統一した。そこには、**Palladian Rite** として知られる、あるエリート集団の、深いルシファー信仰をもつメイソン団の一派が含まれていた。

1870年までに、イルミナティは、主だった工業国の独立と主権をくつがえして、地球的統制の確固たる組織に組み込むのに必要とした、地球的な勢力圏をもった。これが悪名高い **New World Order** で、アメリカ大統領とかイギリスの首相、その他、国際的指導者たちが過去 20 年間、口にしてきたものである。

イルミナティの計画

イルミナティは過去百年にわたって、中東、北と南朝鮮、カシミール、台湾など、慎重に工作された発火点を設けて、各所に“ドミノ”を仕掛けてきた。彼らは地球のかなりの部分を不安定化しつつある。イスラエルとイスラムの間、パキスタンとインド——ともに核能力をもつ——の間の対立は、火を噴いて、全面的な第三次大戦に発展する可能性がある。

ヨーロッパの苦しみのほとんどは、“統制された”石油と食糧の不足、“統制された”国際的銀行組織の崩壊、それに“統制された”テロリストの活動を通じてやってくるだろう。生物兵器や、地震誘発技術の使用もありうるだろう。これはこの計画の一部と思われる。彼らはそれを壁画の中に取り入れている。

http://www.helpfreetheearth.com/news205_bank.html

イルミナティの計画は、もちろん完全には予想できない。なぜなら彼らは絶えず、環境の変化とともに、戦略を修正しアップデートしていくからである。これによって彼らは、破壊的な諸活動を、通常の出来事の衣の下に隠し、起こりつつある条件を、最大限に利用することができる。

イルミナティがアメリカを、核の装置（汚い爆弾など）を使って不安定化させ、これを過激イスラム主義者の仕業にしようとしていることを示す、強い兆候がある。イルミナティは続いて、そこから起こる混乱を利用して、国土全体に戒厳令を布き、反抗する者を投獄するだろう。反抗者の最も信頼されるリーダーもまた、イルミナティの計画に奉仕する。イルミナティは巧妙に、あらゆる争い、革命、戦争、また運動の両サイドをコントロールする。

http://www.helpfreetheearth.com/news271_Jones.html

アメリカは 20 世紀の間に、世界経済の発電所となるように、慎重に養育された。ドルが、国際取引、世界的銀行、また金融市場において、至上のものとして君臨した。ほとんどすべての大きな産業と科学技術の発展は、この大きく、安定した、常に成長する経済圏の中から生まれるように計画された。これは、イルミナティの時間表に従って、それが崩壊したときには、全体としての世界経済が、混乱の中に投げ込まれることを確実にする。

これこそ、マルクス主義が達成するように仕組まれたもの——社会不安である。元国務長官ヒラリー・クリントンは、彼女の卒業論文を、マルクス主義者サウル・アリンスキーの著作に基礎づけた。2007 にどこからともなく現れたオバマ大統領が、数年間、サウル・アリンスキーのマルクス主義を教えていたというのは、驚くに当たらない。アリンスキーの本 *Rules for Radicals*（過激派のルール）は、ルシファーに捧げられていて、あまりにも転覆的、あまりにも非人間的に破壊的なものなので、マキアベリも顔色をなくするほどである。

http://www.helpfreetheearth.com/news295_birth.html

イルミナティ犯罪家系、その歴史、人類に対する彼らの恐るべき犯罪、彼らのアジェンダ、そして、それに対しあなたに何ができるか、については、*Ring of Power*（我々の店で入手可能）をご覧ください。

<http://www.helpfreetheearth.com/store-main.html>

<http://www.helpfreetheearth.com>

